

主催:日本FP学会 共催:日本FP協会
第13回「日本FP学会賞 受賞論文」発表！！

最優秀論文賞:伊藤 希氏、枇々木 規雄氏
収入管理タイプが家計に及ぼす影響の分析とファイナンシャル・プランニングへの応用

日本FP協会(所在地 東京都港区、理事長 白根壽晴)では、個人の資産設計や資産管理等ファイナンシャル・プランニングの理論的基盤となるパーソナルファイナンスの学問的体系の確立を目指す日本FP学会(会長:吉野 直行 アジア開発銀行研究所所長)と共催し、2018年9月8日、青山学院大学 青山キャンパスにおいて、第13回「日本FP学会賞」(共催:日本FP協会)を発表し、受賞者を表彰いたしました。

今回、以下の論文が選ばれました。

■最優秀論文賞

論文名:収入管理タイプが家計に及ぼす影響の分析とファイナンシャル・プランニングへの応用
伊藤 希氏 (いとう のぞみ/みずほ銀行)
枇々木 規雄氏 (ひびき のりお/慶應義塾大学)

■優秀論文賞

論文名:ブラック・リッターマン法を用いたリスクベース・ポートフォリオの拡張
中川 慧氏 (なかがわ けい/野村アセットマネジメント)

■日本FP協会奨励賞

論文名:長期的な低金利環境下における低利調達・低収益企業の株式リターン分析
長谷川 大地 (はせがわ だいち/SAS Institute Japan)

「日本FP学会賞」は、パーソナルファイナンスに関する分野で独創的で優れた研究を表彰し、研究者・実務家・大学生への支援を通じて、当該研究の振興に資するとともに、将来に向けたパーソナルファイナンス研究の担い手の育成を目的とし、今回で13回目となりました。

今回も応募の中から厳正な審査が行われ、最優秀論文賞1点、優秀論文賞1点、日本FP協会奨励賞1点となりました。

表彰式では、吉野 直行日本FP学会会長によって各賞受賞者への表彰状、研究奨励金の目録の授与が行われ、受賞者の皆様には会場からの暖かい拍手が送られました。

今回の発表に係る、受賞論文要旨及び第14回「日本FP学会賞」の概要は次頁以降をご覧ください。

日本FP学会賞は、日本FP学会が主催し、日本FP協会が共催しています。パーソナルファイナンスに関する8分野(ライフプラン、金融資産運用設計、リスクマネジメント、不動産、税務、法律、金融経済教育、その他)について、独創的で優れた研究を表彰するもので、「最優秀論文賞」、「優秀論文賞」のほか、研究者を奨励する「日本FP学会奨励賞」、実務家を奨励する「日本FP協会奨励賞」、大学生を奨励する「学生奨励賞」を設けています。

※日本FP学会は、2000年3月、グローバル化のもとにおけるパーソナルファイナンスの研究及びその教育・普及によって、わが国の金融システムの安定・発展を図り、個人の資産管理に関する教育及び研究を行う人材の育成を目的として設立されました。日本FP学会は、研究者と実務家との相互交流による実社会に対応した研究の水準アップにより、広い意味での日本人に適した個人の資産設計、資産管理のノウハウが生活科学という学問的裏打ちをされることにより個人投資家・預金者の利益に資することを目指しています。

◆本件取材に関する報道関係の方のお問合せ先

担当	日本FP協会 広報部広報課 金田・田和	TEL 03-5403-9739	FAX 03-5403-9795	E-mail info@jafp.or.jp
----	------------------------	---------------------	---------------------	---------------------------

※ CFP®、CFP®、CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®、およびサーティファイド ファイナンシャル プランナー®は、米国外においては Financial Planning Standards Board Ltd.(FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。

特定非営利活動法人(NPO 法人) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会

<本部事務所> 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28 虎ノ門タワーズオフィス5F TEL 03-5403-9700(代) FAX 03-5403-9701
<大阪事務所> 〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜1-4-19 マニライプレイス堂島5F TEL 06-6344-8063 FAX 06-6344-8065

受賞論文要旨

■最優秀論文賞

収入管理タイプが家計に及ぼす影響の分析とファイナンシャル・プランニングへの応用

伊藤 希 (いとう のぞみ)
枇々木 規雄 (ひびき のりお)

世帯の家計について、世帯の構成員が独力でファイナンシャル・プランニングを行うのは多大な労力を要するため、ファイナンシャル・プランナーの助言を必要とする。したがって、ファイナンシャル・プランナーは専門的な知識を持たない人々にとってもわかりやすい助言を行うことが求められる。家計における支出には世帯の特性（生活スタイルや趣味・嗜好など）が少なからず影響しているが、このことを当事者が意識して、生活水準を下げたり娯楽費を減らすなどの方法で、自ら改善に導くことは難しい。

家計の収入や支出の出所の管理方法をパターン化したものを、収入管理タイプという。これも収入・支出額に大きな影響を与える世帯の特性の1つであるが、前述の生活スタイル等と違って、当事者の意識次第で比較的容易に変更できる。そのため、ファイナンシャル・プランナーは収入管理タイプを変えるという方法によって、家計の改善を促すことが可能である。

本研究では、公益財団法人 家計経済研究所が実施した「消費生活に関するパネル調査」の個票データを元に、世帯の特性（収入管理タイプおよび主観・客観指標）と家計の収入・支出項目との関連を分析し、支出が抑えられる世帯の特徴を導く。そして収入管理タイプと支出額の関連を明らかにし、その結果をファイナンシャル・プランニングへ応用するための方法を提案する。

■優秀論文賞

ブラック・リッターマン法を用いたリスクベース・ポートフォリオの拡張

中川 慧 (なかがわ けい)

近年、伝統的な平均分散法に代わって、推定が困難な期待リターンを必要とせず、リスクのみに着目したリスクベース・ポートフォリオが注目を集めている。このようなリスクベースのポートフォリオ構築手法として、最小分散、リスク・パリティ、最大分散度ポートフォリオなどが代表的である。一方で、リスクベース・ポートフォリオは期待リターンを捨象してしまっているため、特別な場合を除き平均分散の意味で効率的ではない。そこで、本稿ではブラック・リッターマン法に基づき、期待リターンを考慮したリスクベースのポートフォリオ構築手法を提案する。具体的には、リスクベース・ポートフォリオのウェイトから逆算したインプライド期待リターンを算出する。そしてその期待リターンと投資家の見通しを合わせることでリスクベース・ポートフォリオに期待リターンと見通しを導入することが可能となる。資産配分を例とした実証分析の結果、提案手法は良好なパフォーマンスが確認できた。

■日本FP協会奨励賞

長期的な低金利環境下における低利調達・低収益企業の株式リターン分析

長谷川 大地 (はせがわ だいち)

金融資産運用設計において重要なポートフォリオを構成する国内株式を洞察する上で、低金利の経済環境ならびに企業の収益性の低迷が恒常的に続くわが国の特殊な市場環境の考慮は不可避である。本稿では、2000年から2016年までの国内上場企業データを用いて、極めて低い金利水準で資金調達を行っている企業、かつ、収益性が低い企業を判定・抽出し、当該企業の株式リターンを複合的に分析した。こうした企業は、一般に生産性が低く外部不経済による悪影響を及ぼす企業とも見做され、市場から退出することが望ましいとされる。しかしながら、株式リターンの観点から見た場合、このような条件に該当する企業は、その後の株式リターンのパフォーマンスが平均的に改善していたことが分かった。また、イベント・スタディーの手法を用いて決算発表時点の異常リターンを分析したところ、こうした企業に対する市場の反応はポジティブかつ統計的に有意なものであった。

「第14回 日本FP学会賞」応募要項概要

■目的

パーソナルファイナンスに関する分野で独創的で優れた研究を表彰し、研究者・実務家・大学生への支援を通じて、当該研究の振興に資するとともに、将来に向けたパーソナルファイナンス研究の担い手の育成を目的とする。

■組織

主催: 日本FP学会 共催: 日本FP協会 後援: 日本経済新聞社、日本経済研究センター

■表彰(総額110万円)

〈研究者、実務家〉

最優秀論文賞	賞状+研究奨励金50万円
優秀論文賞	賞状+研究奨励金30万円
日本FP学会奨励賞	賞状+研究奨励金10万円
日本FP協会奨励賞	賞状+研究奨励金10万円

〈大学生〉

学生奨励賞	賞状+図書カード10万円
-------	--------------

■スケジュール

応募締切: 2019年5月7日 結果発表: 2019年8月、日本FP学会大会

■選考方法

一次選考: 応募論文について専門分野の委員により独創性、論理の展開力、実務への応用性等に着目しつつ評価し、二次選考に推すべき論文を受賞候補として推薦。

二次選考: 一次選考によって推薦された受賞候補論文について二次選考委員により各賞を決定。

■選考委員 ☆は委員長

〈二次選考委員〉

☆吉野直行(日本FP学会会長、慶應義塾大学名誉教授、アジア開発銀行研究所所長)
小島明 (政策研究大学院大学理事・客員教授、日本経済研究センター参与)
伊藤宏一(日本FP協会専務理事、千葉商科大学人間社会学部教授、CFP® 認定者)

〈一次選考委員〉

☆吉野直行
他、パーソナルファイナンスに関連する分野の学識経験者

■応募資格

パーソナルファイナンスを研究する研究者、実務家、大学生を対象とします。

〈研究者(大学院生を含む)、実務家〉

共同執筆による応募、本学会会員以外の方も応募できます。団体名による応募はできません。

〈大学生(短大生を含む)〉

大学学部生のチーム(数名のグループやゼミのグループ)による団体名の応募のみを対象とします。指導教員の推薦を応募の要件としますが、指導教員が本学会会員でなくても応募できます。

(注) 応募者の年齢制限はありません。

日本FP学会賞とは

日本FP学会賞は、日本FP学会が主催し、日本FP協会が共催しています。パーソナルファイナンスに関する8分野(ライフプラン、金融資産運用設計、リスクマネジメント、不動産、税務、法律、金融経済教育、その他)について、独創的で優れた研究を表彰するもので、「最優秀論文賞」、「優秀論文賞」のほか、研究者を奨励する「日本FP学会奨励賞」、実務家を奨励する「日本FP協会奨励賞」、大学生を奨励する「学生奨励賞」を設けています。

日本FP学会とは

日本FP学会は、平成12年3月、グローバル化の進む中におけるパーソナルファイナンスの研究及びその教育・普及によって、わが国の金融システムの安定・発展を図り、個人の資産管理に関する教育及び研究を行う人材の育成を目的として設立されました。日本FP学会は、研究者と実務家との相互交流による実社会に対応した研究の水準アップにより、広い意味での日本人に適した個人の資産設計、資産管理のノウハウが生活科学という学問的裏打ちをされることにより個人投資家・預金者の利益に資することを目指しています。